

島根県におけるキノボリトタテグモの分布について

皆木 宏明*

Distribution of the spider *Ummidia fragaria* (Araneae:Ctenizidae) in Shimane Prefecture, Honshu, Japan

Kohmei Minagi

1. はじめに

キノボリトタテグモ *Ummidia fragaria* (Donitz) (トタテグモ科) は本州、四国、九州、南西諸島に分布し、環境省レッドリストで準絶滅危惧種、島根県レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類のランクで掲載されている日本固有種のクモ (写真1) である (環境省, 2010; 島根県, 2004)。

本種は体長♀10-11mm ♂6-8mm, 生息環境は社寺林などのあまり日光の直射しない岩の壁面や樹皮の窪みなどを利用して、筒状の住居を作る (千国, 2008)。住居は長さ3cmほどの円筒形で入口に片開きの扉をつけるが、住居には苔等を貼り付けて擬装するため見つけにくい (写真2)。安定した森林環境に生息するため、伐採や人為的な環境変化により生息環境の減少が懸念されている (環境省, 2010)。



写真1 キノボリトタテグモ

島根県内での本種の記録は、古い記録では松江市の松江城山公園や楽山公園 (景山, 1966), 奥出雲町鬼の舌震 (景山, 1970), 隠岐の島町 (景山, 1968),

近年では出雲市大社町や大田市温泉津町 (新海・谷川, 2003; 2006) で記録があるが、既存の調査はいずれも散発的で記録も少ない。

今回、県内のキノボリトタテグモの分布調査を実施し、本種が県内各地に分布することを確認したので報告する。



写真2 キノボリトタテグモの住居 (扉を開けたところ)

2. 調査方法

島根県内の社寺林を中心に、2011年5月から2012年1月にかけて、県内の70ヶ所で調査を実施した。調査地の選定にあたっては、県内全域を調査することを目的に、鎮守の森など安定的に林や森林環境を残す場所から選定した。調査方法は主として目視により、樹幹表面や石垣を見て回り、住居及び生体の有無を確認した。確認にあたっては、生体のいる住居の確認のみを生息確認とし、住居のみ (空巣) の確認の場合は生息未確認として、その旨を記録した。

* 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8
The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

3. 結 果

調査した結果、県内14市町村、計37ヶ所でキノボリトタテグモの生息を確認した(表1)。多くはスギなどの樹木の幹表面で本種の住居を確認したが、場所によっては石垣の隙間や土の露出した法面でも確認した。特に立久恵峡(出雲市)や太田八幡宮(大田市)、

長安八幡宮(浜田市弥栄町)では比較的多くの個体を見つけることができた。また、2007年に世界遺産に登録された石見銀山遺跡のある大田市大森町でも3ヶ所で生息を確認した。なお、確認できなかった地点は表2にまとめた。

表1 本調査で確認したキノボリトタテグモの生息地

市町村	確認場所	調査日	詳細
安来市	安来市清水町 清水寺	2011.VI.6	樹表で複数住居確認
	安来市広瀬町 富田八幡宮	2011.VI.6	生体1個体確認、空住居複数確認
松江市	松江市大庭町 神魂神社	2011.VI.12	樹表で複数住居確認
	松江市殿町 城山公園	2011.VI.28	樹表で確認、公園内でも生息はごく一部の少数確認
	松江市八雲町 熊野大社	2011.VI.28	樹表で確認、別の木でも空住居複数あり
奥出雲町	奥出雲町三沢 三澤神社	2011.XI.16	樹表で確認、複数の樹種で空住居を確認
	奥出雲町亀嵩 湯野神社	2011.XI.16	樹表で確認、空住居複数あり
	奥出雲町郡村 大領神社	2011.XI.16	樹表で確認、空住居複数あり
出雲市	出雲市小境町 一畑薬師	2011.VII.12	樹表で生体のいる住居を複数確認、法面でも住居確認
	出雲市乙立町 立久恵峡	2011.XI.24	樹表や根際の法面で多数確認
	出雲市多岐町 鶴ヶ城跡	2011.XII.26	樹表で住居確認
雲南市	雲南市木次町 温泉神社	2011.VI.6	複数の住居を確認
	雲南市大東町 清滝神社	2011.VI.28	樹表で確認
	雲南市大東町 鎌倉神社	2011.VI.28	小規模な社叢だが、個体密度は高い
飯南町	飯南町角井 角井八幡宮	2011.VI.3	樹表で1個体確認、空住居は複数確認
	飯南町頓原 由来八幡宮	2011.X.26	社寺林内で複数の樹表から確認
	飯南町上赤名 赤穴八幡宮	2011.X.26	モミとスギで真新しい住居を確認
大田市 (石見銀山地域)	大田市大田町 円城寺	2011.V.14	樹表で1個体 古い住居は複数あり
	大田市川合町 物部神社	2011.XI.22	樹表で複数確認
	大田市大代町 石清水八幡宮	2011.V.21	樹表で確認
	大田市大代町 太田八幡宮	2011.V.21	樹表に複数確認
	大田市大森町 長砂神社	2011.X.25	樹表で確認
	大田市大森町 正寿寺跡	2011.X.25	階段脇の林で複数確認
	大田市大森町 大久保石見守墓付近	2011.X.25	周囲の林で複数確認
美郷町	美郷町別府 別府八幡宮	2011.V.17	樹表で住居複数
	美郷町都賀本郷 松尾山八幡宮	2011.XI.13	樹表で住居を確認
	美郷町乙原 乙原八幡宮	2011.XI.15	樹表で確認、空住居多数
	美郷町地頭所 地頭所八幡宮	2011.XI.15	樹表で生体1個体確認
川本町	川本町川下筑紫原の神社(名称不明)	2011.XI.22	樹表で複数確認
邑南町	邑南町阿須那 賀茂神社	2011.VII.18	樹表や石垣のすき間で複数の住居を確認
	邑南町矢上 矢上神社	2011.XI.15	樹表で住居確認
江津市	江津市二宮町 多鳩神社	2011.V.31	樹表で複数確認
	江津市桜江町 小田八幡宮	2011.XI.28	参道の法面で多数確認
浜田市	浜田市金城町 常盤山八幡宮	2011.VI.8	樹表で1個体のみ確認
	浜田市弥栄町 長安八幡宮	2011.XI.26	複数確認、個体密度も高い
益田市	益田市土田町 柄山川八幡宮	2011.XI.25	樹表で1個体確認、少ないと思われる
津和野町	津和野町青原 青原八幡宮	2011.XI.1	樹表で確認、空住居は複数確認

表2 キノボリトタテグモを確認できなかった調査地

市町村	調査場所	調査日	詳細
安来市	安来市広瀬町 金屋子神社	2011.VI.6	
松江市	松江市鹿島町 佐太神社	2011.VI.26	
出雲市	出雲市佐田町 須佐神社 出雲市上島町 上乘寺	2011.VI.12 2011.VI.7	
雲南市	雲南市大東町 須賀神社 雲南市加茂町 加茂神社 雲南市加茂町 貴船神社 雲南市掛合町 龍頭ヶ滝	2011.VI.28 2011.VI.7 2011.VI.7 2011.XI.16	
大田市 (石見銀山地域)	大田市三瓶町 本宮神社 大田市大屋町 大屋姫命神社 大田市大森町 井戸神社 大田市大森町 観世音寺 大田市大森町 妙蓮寺 大田市大森町 榮泉寺 大田市大森町 安養寺 大田市大森町 清水寺 大田市大森町 豊栄神社 大田市大森町 龍昌寺跡 大田市大森町 極楽寺 大田市大森町 城上神社	2011.V.17 2012.I.10 2011.X.25 2011.X.25 2011.X.25 2011.X.25 2011.X.25 2011.X.25 2011.XI.29 2011.XI.29 2011.XI.29 2011.XI.29	法面で空巢確認 空巢確認 空巢確認 空巢確認
川本町	川本町川本 弓ヶ峰八幡宮	2011.XI.15	
邑南町	邑南町折居 折居神社	2011.XI.15	
江津市	江津市穂積町 市山八幡宮 江津市穂積町 福城寺 江津市桜江町 甘南備寺	2011.V.25 2011.V.21 2011.XI.28	空巢確認 (複数) 空巢確認 (複数)
浜田市	浜田市殿町 浜田城跡 浜田市宇野町 宇野八幡宮	2011.V.14 2011.V.31	空巢確認 (複数)
益田市	益田市下種町 高倉山八幡宮 益田市波田町 上波田天満宮	2011.XI.25 2011.XI.25	空巢確認
津和野町	津和野町鷲原 鷲原八幡宮 津和野町三渡 三渡八幡宮	2011.X.31 2011.X.31	空巢確認 (複数)
吉賀町	吉賀町九郎原 三宮神社 吉賀町桃谷 愛宕神社	2011.XI.1 2011.XI.1	空巢確認 (複数)

4. 考 察

今回の調査の結果、キノボリトタテグモが鳥根県内各地に分布することが確認できた。本種の住居は苔等でカモフラージュされ発見しにくいいため、今回複数の空巢を確認したにも関わらず生体を確認できなかった場所でも、今後の調査で発見できるかもしれない。しかし、確認地点での生息範囲はいずれも限定的で、どこでも見つかるわけではないが、鶴崎ら (2007) も指摘しているように、比較的安定した社叢のような森林環境が残されていれば他にも県内各地で生息して

いる可能性があると思われる。今回の調査では、特に大径木の樹木が残された環境では、生息可能性が高いように思われた。新海 (2006) は本種がサクラ、マツ、クス、スギ、ヒノキなどの古木に住居を作るとしており、営巣する樹種には、あまりこだわらないという。

また今回の調査では、世界遺産に指定されている石見銀山遺跡でも本種の生息を確認した。発見場所はいずれも厳格に保全・保護が義務づけられている核心地域(コアゾーン)内の3地点であった。石見銀山遺跡は、「石見銀山遺跡とその文化的景観」という名称で世界遺産登録されているように、かつての鉱山経営の痕跡

が自然景観と一体となって残っている点が高く評価されている（鳥根県教育委員会，2007）。このことから石見銀山遺跡に本種の生息できる環境が残されている点は興味深い。

景山（私信）によると、当時顧問をしていた松江市立女子高等学校生物部が1972-1974年の3年間、松江城山公園（松江市）で実施したキノボリトタテグモの生息調査では、毎年約400個体もの住居を確認することができたとされる。しかし、今回の調査では公園内で数個の住居を見つけるにとどまり、かつてまとまった住居を確認したとされる石垣やスギ林は残存するにも関わらず同じ場所では1匹も確認できず、古い住居の痕跡すら見つけることができなかつた。原因は不明だが、現在の松江城山公園には1970年代ほどの個体数は生息していないと推測される。

今回の調査で、本種が鳥根県の各地に分布することが確認できた。今後も調査が進めば新たな確認地が増えると思われる。しかし、本種の生息地での分布範囲はいずれも非常に限定的であり、人為的な環境変化の影響を受けやすいため、本種の生息状況の推移については今後も注意する必要があるだろう。

謝 辞

本種に関する分布記録をご教示いただいた日本蜘蛛学会会員の景山純孝氏（雲南市）に、この場を借りて深謝いたします。

引用文献

- 景山純孝 1966. 山陰地方の真正蜘蛛類 第一報. 松江市立教育研究所研究収録, 3:94-102.
- 景山純孝 1968. 隠岐島産真正蜘蛛類について (続報). 松江市立教育研究所研究収録, 5:97-104
- 景山純孝 1970. 鳥根県仁多郡鬼の舌振の真正蜘蛛類. 松江市立女子高等学校研究紀要, 1:17-29.
- 環境省自然環境局野生生物課 2010. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-7 クモ形類・甲殻類等:1-13
- 鳥根県 2004. 改訂しまねレッドデータブック~鳥根県の絶滅のおそれのある野生動植物
- 鳥根県教育委員会 2007. -世界遺産-石見銀山遺跡とその文化的景観. 公式記録誌, 143pp.
- 新海 明・谷川明男 2003. 鳥根県で観察したクモ類. Kishidaia, 84:69-71.
- 新海 明・谷川明男 2006. 東京蜘蛛談話会2006年度合宿報告鳥根県大田市温泉津 (ゆのつ) 温泉周辺のクモ. Kishidaia, 90:52-61.
- 新海栄一 2006. ネイチャーガイド 日本のクモ. 335pp.
- 千国安之輔 2008. 写真・日本クモ類大図鑑 改訂版. 偕成社.
- 鶴崎展巨・川口みなこ・船倉大和・松本透 2007. 鳥取県内のキノボリトタテグモの新産地. 山陰自然史研究 第3号 鳥取県生物学会23-24.